

天気	きょう							あす							
	6時	9	12	15	18	21	24								
京都	28 14	☀	☀	☀	☁	☁	☁	25 20	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
宇治	27 12	☀	☀	☀	☁	☁	☁	25 18	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
舞鶴	28 13	☀	☀	☀	☀	☁	☁	24 19	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁

週間天気		京都							宇治							
3日	☁	27 18	4日	☁	22 17	5日	☁	21 15	6日	☁	20 14	7日	☁	20 14	7日	☁
3日	☁	27 16	4日	☁	22 15	5日	☁	21 13	6日	☁	20 12	7日	☁	20 12	7日	☁

防御よりも経済重視



木津川市のJR木津駅北東に、府内最大規模とされる山城・鹿背山城がある。築城年は不明だが、15世紀後半には興福寺(奈良市)の勢力下で、木津氏らが入

城していたとみられる。1560年ごろには、大和を支配下に置いた松永久秀が、京都をにらむ北の拠点として、現在に残る大規模な縄張りを整備した。ふもとから主郭(標高1353m)への山道は、地元「木津の文化財と縁を守る会」(岩井照芳会長)が下草刈りなどを続けているため歩きやすく、曲輪や土塁、堅堀などの遺構にも

城は松永氏の衰退とともに役目を終え、長くその存在は忘れられていた。しかし、1978年に遺構が発見され調査が行われると、織豊期の石垣作りの城になる前の中世城郭の多彩な防御施設を持つ姿が明らかとなった。今も残る畝状空堀群が往時の堅城さを示す。発見当初から調査に関わる岩井会長は「当時は道無き道を分け入り、滑落の危険と隣り合わせになりながら山を歩いた」と振り返る。



城から木津川を挟んだ対岸にある「山城郷土資料館(ふるさとミュージアム山城)」には、調査をもとに製作した縄張り模型も展示している。城の歴史は文献が少ないため不明なことが多いが、岩井会長はその立地から「防御拠点というよりも、経済的な意味合いの強い城だったのではないかと推測する。城の西、木津川が西から北へと蛇行する南岸には、古代から「泉津」と呼ばれる港があり、大和への物流拠点となっていた。



●標高1353mにある鹿背山城主郭 ●主郭から南東の土塁と堅堀の様子 木津川市

岩井会長は「防御の観点から言えば、鹿背山の東の大野山(標高2033m)の方が高く、切り岸も急で守りやすい。あえて鹿背山に作ったのは、泉津への影響力を強める狙いがあったのだろう」と語る。城が活躍した戦国時代だけでなく、古代からの人や物の流れを考えることで、見えてくるものもある。

【磯野健一】
 ■アクセス JR木津駅から徒歩約40分、奈良交通鹿背山バス停から徒歩約20分
 ■次回は10月29日